

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校 令和3年度 自己評価報告書

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
1、教育理念・目的・人材育成像	1-1、理念・目的	1-1-1、理念・目的・育成人材像は定められているか	創設以来「産学共同・現場実践教育」の理念の下、プロとして永く活躍できる人材の育成は堅持。	企業課題やオーディションなど、適宜カリキュラムの中にその要素は取り入れて、体系的に編成されている。	理念維持のためには事業部はじめ業界との連携は絶対であり対応実務者には有識者が必要。	各学科が目指すべき職業の経験者を実務者として採用することを進めておりほぼ達成できている。	4
		1-1-2、学校における職業教育の特色は何か	変化の激しいエンタテインメント産業の状況に適切に応えるカリキュラムを準備する。	現役クリエイターの講師や事業部職員から常に情報を入手しカリキュラムに反映している。	メディアの多様化など求められる技術は常に変化多様化しておりカリキュラムの修正は細かく対応が必要。	毎週の職員会議、半期に一度の講師会などで業界傾向は即座にカリキュラム化することを実践。	3
		1-1-3、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	プロとして就職させる以外に人間的な成長やそのフォローを望むニーズは感じている。	個人指導が絶対的に必要であり悩みの相談や進路指導などはかなりの時間を費やしている。	業界企業以外の企業情報の収集、メンタルケアなど特殊な技能が職員には一定求められる。	参考文献の購入補助や、専門家を招いての職員研修を定期的の実施しレベルアップを目指す。	3
		1-1-4、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	入学時には入試の一部として必ず面接を行い将来構想についての確認を行っている。	就学がハードな傾向になることは理解はしていても実際には適応していけないケースは出る。	常に担任が個別に就学レベルのチェックを行う必要があり、面談の機会が飛躍的に増えている。	担任とセクションリーダーが常に一体化し就学レベルに問題が見られた在校生に迅速なアドバイスを行う。	3

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：森憲司

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
2、学校運営	2-1、運営方針	2-1-1、目的等に沿った運営方針が策定されているか	「産学共同・現場実践教育」実現のため自社事業部の強化は常に取り組んでいる。	既存学科にまつわる企業課題の類は、その一定数を事業部提供のもののみで賄っている。	時代とメディアの変化とともにさらに範囲の広い事業展開が必要となって来ている。	学校と事業部との連携、情報交換の場はオンライン会議の普及などにより担保しやすくはなっている。	3
		2-1-2、運営方針に沿った事業計画が策定されているか	短期・中期に分割して、明確なビジョンとともに常に点検、準備に取り組んでいる。	事業部運営は独立採算制で運営し単体での業績アップ、学生への機会の創出は目標をクリアしている。	制作構造の問題もあるがゲーム部門における学生への企業課題等の創出が伸び悩んでいる。	大阪のゲーム学科が中心となりカリキュラムに密着した新たな企業課題の構築を準備中である。	2
	2-2、人事	2-2-1、人事・給与に関する規定等は整備されているか	就労環境や人事方針・計画、給与規定は幾度の改善を経て、明確に規定化されている。	その点検も運営管理会議のレベルで常に取り上げ、改善点等はピックアップされている。	随分と改善されて来たとは思えるが充実にした教育指導を行うには一定の労働時間は伴うものではある。	フレックスタイムの導入などにより、より効率的な勤務体制は実現できつつある。	4
	2-3、組織運営	2-3-1、教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	セクションリーダーの明確化により、日常的な意思決定は迅速に体系的に行なっていく。	リーダーの管掌範囲が明確になり、よりタイムリーで密な報告、連絡、相談が実現できつつある。	さらにスピーディーな対応、反応ができるようリーダー間の情報共有も強化していく必要がある。	定期的なリーダーミーティングを通じ情報共有ケーススタディ等、管理職による指導を行っている。	3
		2-3-2、業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	規定、契約などとともに学生活動が伴うものについては必ず確認、提示することを徹底。	いかなるケースにも対応できるレベルの法的根拠に基づいた規定の準備を進めている。	法務的なシチュエーションに明るい事務職員は専門には常駐していないのが現状。	今後の事務職員の人事方針の中に学校公務、法務経験のある人材の確保を織り込んでいく。	2
		2-3-3、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生管理システムの導入が完了しており、全校的に効率化を図る準備が進んでいる。	現在、その運用に向けて準備構築を進めているが完成形には現状では至っていない。	入試、教育、進路の情報が体系化されたレベルで全職員が簡単に享受できるように完成させる。	担当者が専門業者との打ち合わせを経て、我々の実勢にあったシステム作りに取り組むことを進める。	3
	2-4、情報公開	2-4-1、教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	常に正確に、ありのままに基づいた情報公開していくことを第一の理念としている。	公平、正確に教育活動等は運営がなされており、また情報の開示も各所に行っている。	実習が多いなど一般的教育活動とは相違する点も多く、より掘り下げた情報の開示は必要。	とくに保護者に向けた途中経過の報告などはネットワークを通じてリアルに伝えていく。	3

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：森憲司

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
3、教育活動	3-1、目標の設定	3-1-1、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	各学科基本方針・教育理念などは年度に一度確認されている。	年度末に実施の講師会において学科担任及び教務部長の確認がなされている。	シラバス作成の過程においてスケジュールが非常にタイトである。	講師へ授業計画書及びシラバスの提出を早めることで翌年からの運営を円滑に進めていく。	4
	3-2、教育方法・評価等	3-2-1、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	学科の目指す進路に合わせ、業界・現場で必要とされる知識・技能を体系的に学習するカリキュラムによる教育を行う。	業界に知見のある教員・講師により、毎年カリキュラムの見直しが行われている。	より広範な業界関係者による意見を取り入れる余地がある。	「教育編成委員会」などで業界の要請したカリキュラム編成を行っていく。	4
		3-2-2、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	専門学校独自の活動に留まらず、グループ校や企業からの情報を得て、カリキュラムに反映させる。	コロナ禍においてオンライン授業に変更があったものについても一定の学習成果に繋がっている。	今後、オンライン授業が行われる際のハード部分の改善の余地はある。	オンライン授業における出席率・補講・課題提出に一定の基準を設けている。	3
		3-2-3、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	学生の進路先の業界に在籍する講師からも最新の情報を得て常にカリキュラムはアップデートをする。	職業実践専門課程の申請に向けて講師会にて「教育編成委員会」の確認と協力を要請。	業界の実情や今後の動きを定期的にチェックすることが必要である。	「教育編成委員会」を通じて得た情報をもとにシラバスに落とし込み、業界の要請を反映していく。	3
		3-2-4、関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	開校以来、「制作現場こそが最高の教育現場である」という理念を基に「産学共同・現場実践教育」実現の為に環境を整えている。	学科によって偏りがあり現状実現可能な学科と検討すべき学科がある。	現状、学科の特性で出ていないところに関しての体系化の整備が必要である。	グループ企業に加えて関連企業とも連携し、学生に実践的な職業実習の場を提供していく。	3
		3-2-5、授業評価の実施・評価体制はあるか	授業改善・教職員・講師の資質向上を目的とし教育効果のある質の高い教育を目指す。	今年度より「授業評価アンケート」を実施し、講師への共有を行う。講師や学生の状況などを把握した。	学科ごとの評価は実施したが、組織的に情報公開のためのチェック体制が出来ていない。	情報公開に向けて各学科の評価を総体的に確認し、評価基準を明確化していく。	3
		3-2-6、職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校評価委員による「学校評価委員会」を年2回取り入れている。	昨年度より実施し、3名の外部委員によりご意見、アドバイスを頂戴している。	外部評価委員が固定になりつつあるため、幅広い視点でのご意見が必要である。	今後、外部評価委員の人数と業界の窓口を増やしさらに客観的なご意見を頂いていく。	4
		3-2-7、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位・判定の基準はシラバスにも記載されており、学生にも入学時に説明がなされている。	毎年、前期成績判定会議、進級・卒業判定会議を実施し、そのスケジュールは年度初めに周知されている。	オンラインでの授業も継続的に取り入れることにより対面及びオンライン授業の評価基準を全学科で共通認識を持つ必要がある。	今期より学生管理システムが導入されることにより、成績判定会議の資料や評価基準が揃い、総体評価として反映される。	4
	3-3、資格試験	3-3-1、資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	目指す業界・職種において有用な資格がないため、取得を推奨している資格・免許などははない。	現状、カリキュラムに取り込みなどは行っておらず、全学科的にも学生に推奨はしていない。	就職に資格取得が必要なものがあるなど、業界の動向には注視していく必要がある。	就職活動の際に有利になる、または取得することで評価される資格など今後の業界の動向をみていく。	3
	3-4、教職員	3-4-1、人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学科の教育方針や基本理念を各講師が理解し業界で通用するプロを育成していく。	業界に精通し、実務経験のある講師を招聘している。	業界で長く活動されている講師が多いが若手・中堅層を厚くし、活性化が必要である。	業界で第一線で活動している卒業生を起用し今の業界の動向を掴んでいく。	4
		3-4-2、関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行なわれているか	職員全体のスキルと意識の向上を目的とした社内研修を年間数回スケジュールして実施する。	奨学金や新システムなど業務に必要なスキルをつけるための社内研修などは定着しつつある。	新しいスタッフも増えてきていることから今後も継続的に研修をしていく必要がある。	今後外部の研修なども経験し幅広いスキルを身につけていく。	3

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
4、学修成果	4-1、就職率	4-1-1、就職率の向上が図られているか	本校はエンタテインメント・コンテンツ制作業界を支える人材の育成を目的としており、その集大成ともいえる就職率向上のための取り組みは特に重要と考えている。	1年次から就職ガイダンスや進路面談を実施している。面談、履歴書添削はオンラインでも対応可能な体制となっている。令和3年度は学内説明会を45社、クリエイター面接（模擬面接）を35社実施した。	学内イベントへの来場は、クリエイティブ業界のなかでも採用人数が多いゲーム企業、アニメ会社が大部分を占めている。	雑貨メーカーや広告系業界など2Dデザインのスキルを生かせる企業の開拓を進める。	4
	4-2、資格・免許取得率	4-2-1、資格取得率の向上が図られているか	就職において有利になる資格・免許がないため、積極的な取得は推奨していない	資格・免許取得のための全学的な取り組みはおこなっていない。			2
	4-3、卒業生の社会的評価	4-3-1、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	求人の斡旋、教員の候補者開拓の観点からも、業界で活躍する卒業生の動向把握は必要と考えている。	卒業生への接触は就職相談・転職相談をはじめとした取組みが中心となっている。	卒業生との関係については、職員と卒業生の個別の繋がりによって成り立っている場合も多く、組織的な情報収集には至っていないと感じる。	令和4年度からは新たに学生管理システムが導入され、卒業後の連絡先や就職先に関する情報が全学的に管理できる体制となったため、これを活用していく。	2
		4-3-2、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	エンタテインメント・コンテンツ業界のニーズに沿った人材育成は、重要な課題と捉えている。	本校の教育システムは、卒業生の就職先企業をはじめとした産業界からも高い評価を得ていると感じる。	希望の進路に就けた卒業生や、その就職先からは概ね高評価を頂戴している。その反面、希望通りの進路が叶わなかった学生にも同様に細やかなサポートが必要と感じる。	クリエイティブ業界以外の企業、いわゆる一般企業のなかでも継続的に内定者を輩出している企業と、良好な関係を築けるようにアプローチを続ける。	3

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
5、学生支援	5-1、進路・就職等	5-1-1、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	教育の集大成ともいえる進路・就職に関する支援体制整備は特に重要と考えている。	キャリアセンターの職員3名が学科ごと就職ガイダンス、進路面談、企業採用担当との窓口を担当することにより、責任を明確化している。声優学科は担任が進路オーディション・就職に関する支援を担当している。	学生のニーズが近年多様化している。シナリオ関連、Vtuber関連、中四国地方へのUターンや、障がい者求人に関する相談も増加傾向にある。	学生の満足度向上のため、希望者が少数の分野においても支援できる体制を整えていきたい。	4
	5-2、学生相談	5-2-1、学生相談に関する体制は整備されているか	相談内容によって窓口は異なるが、最終的には全スタッフが把握できる体制をとっていく。	学校生活においては教務、奨学金・事務手続きは事務局となっているが、情報の共有・連携は行っている。	学内で問題解決できるもの以外に、第三者による相談窓口が整備出来ていない。	学生管理システム内で全スタッフが閲覧出来る環境を整備し、社内研修などを通じて学生相談の対応力を高めていく。	3
		5-2-2、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	学生の就学継続のためには、多様な経済的支援は必要と考えている。	在校生の日本学生支援機構奨学金の奨学金や高等教育修学支援新制度の利用者は、年々増加傾向にある。ホームページGoogleClassroomを用いた情報提供も充実させ、学生課職員3名体制で丁寧な対応をしている。状況に応じて、国の教育ローンや教育クレジット等の提案や学費納入延期の相談も行っている。入学者についても、オープンキャンパスの保護者説明会等で制度説明を行っている。また、授業料一部減免を受けられる特待生入学・AO入学・推薦入学等で、優秀な学生の進学を支援している。	経済的困窮者が増加傾向にあるため、既存の制度だけでは進学・進級を支援しきれないケースも増えている。	対応する学生課職員のさらなる知識の向上に努め、適切な情報提供の機会も増やしていきたい。 また、学費納入サイクルについても、見直しを検討したい。	4
		5-2-3、学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学校健康法に従い、毎年外部医療機関での学生の健康診断を実施。	年1回の健康診断を実施。既往症についても申告があるものは学生管理システム内で把握に努めている。	学内に校医の常駐はないため、地域医療機関との連携が必要になってくる。	特筆すべき事項がある場合は保護者とも連携をし、職員会議等を通して症例の共有をし組織的に対応をしていく。	3
		5-2-4、課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ・サークル活動は行わないが、主に作品制作・稽古などの課外活動のために、学校の設備や教員講師による支援を行う。	課外時間の就職・デビュー活動とその他の作品制作と稽古のために、学校の施設・設備の貸し出し等を行っている。	コロナ禍前に比べ、施設の利用ができる時間が制限されている。自宅に機材を貸し出すなどしているが、学校と同環境で学習ができるわけではない。	自宅など、学校外での課外学習において、なるべく学校と同じ学習環境になるよう、ソフトウェアや貸し出し機材などの充実を図る。	3
		5-2-5、学生の生活環境への支援は行われているか	遠方からの進学者に対して、安心して生活できる住環境を提案することは必要と考える	協力企業と連携し、進学者のニーズに応じた住環境の情報を提供している。また、近隣トラブルについても、協力企業と情報連携し、適切に対応している。	近年、ごく僅かではあるが、近隣トラブルが報告されている。	適切な情報提供や、協力企業、学生課、教務での情報交換や相談体制を継続して行っていく。	4
		5-2-6、退学率の低減が図られているか	オンライン授業等で登校回数が少なくなっている学科もあるが、学生面談を細かく実施している。	2年間を通じ、通常期の面談に加え、就職・進路時期などにも面談を実施し、常に学校生活について学生からの相談に対応している。	学科によっては1名の担任制の為、全員の状況を把握するのに時間を要することがある。	導入された学生管理システムの指導記録を活用し、学生の状況を担任以外でも把握して組織的な対応に努めている。	3
	5-3、保護者との連携	5-3-1、保護者と適切に連携しているか	保護者との連携は電話やメール、来校面談などを通じて配慮は出来ている。	欠席が続く学生に対して保護者への連絡は必須。また長欠、休学、退学にいても必ず保護者に確認をとったうえで手続きを進めている。	仕事などのご都合で保護者と連絡がとれにくい方については今後手段を検討していく必要がある。	保護者向けの学校WEBページを活用すると同時に「保護者だより」などを年間数回発行し、保護者側に学校の取り組みを知ってもらう機会を増やす。	3
	5-4、卒業生支援	5-4-1、卒業生への支援体制はあるか	卒業後「OB・OGネットワーク」への登録を促し、卒業生支援を拡げている。	卒業のタイミングでOB・OGネットワークへ登録を促進するためにGoogleClassroomでの告知を実施。	業界進出者と業界以外に進路の卒業生に対して学校側としての意識と取り組みには差異がある。	学生管理システムを卒業後も活用していくため、情報を更新しながら卒業生の動向の把握に努めていく。	3

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
6、教育環境	6-1、施設・設備	6-1-1、施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	常に最新の業界動向に目を配り、実際に想定されている現場での実践に活用できる施設・設備を整備する。	毎年度、施設・設備の更新を継続している。	IT機器やソフトウェアの進歩が速く、幅広く利用されるようになったため、より拡充が必要と思われる。	施設・設備の更新の頻度を増す、またICT機器の配布教材化などを視野に入れ検討を行う。	3
		6-1-2、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	グループ内や業界と連携したインターンシップをさらに増やしていくが海外研修については実施検討はない。	産学共同・現場実践教育に基づきグループ内における制作現場体験の場は充実している。	学科によってインターンシップの学生の参加機会は偏っている。	業界とのパイプを活かしながらグループ内だけに留まらず学生にインターンシップへの参加の機会を増やしていくよう各種団体にも働きかけていく。	3
		6-1-3、防災に対する体制は整備されているか	学生や職員の安全のため、万全な避難計画や備えが必要と考える	コロナ禍により、全学生参加の避難訓練を実施できないが、学生にはオリエンテーションにて避難経路や心構えを指導している。	安全を考慮しての避難訓練の再開、大規模災害に備えた備蓄に取り組みたい	全職員に対する防災マニュアルの周知し、管理会社や消防署とも相談しながら訓練の再開等、防災体制を強化していく。	3

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：6-1-1～6-1-2下間正巳・6-1-3飯間陽子

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
7、学生の受入れ募集	7-1、募集活動	7-1-1、学生募集活動は、適正に行われているか	入学希望者および保護者には、エンタテインメント業界における具体的な就職状況や仕事内容についての情報提供を積極的に実施し、不本意入学等のミスマッチが無いように努めている。	各種進学ガイダンスにて高校生に対する進路サポートを行っているほか、オープンキャンパス内での職業体験など真実性のある説明を実施している。	オンラインでの情報発信に関しては、説明内容に誤解を招かないよう細心の注意を払うとともに、真実性・具体性・明瞭性の更なる追及が課題だと考える。	担当職員の意識向上のための勉強会や客観性を養うための外部団体による講習会への参加などを通して担当職員の知見を広げていきたい。	4
		7-1-2、学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	入学希望者が十分に判断できる材料を提供するために、真実性や明察性・法令遵守に配慮した情報の開示・公開を実施している。	卒業生の活動状況や在校生の就職実績速報を学校パンフレットやホームページなどで掲載・説明を実施している。			4
		7-1-3、学生納付金は妥当なものとなっているか	就職先である業界の状況や社会情勢等に即した金額の検討および決定が必要であると考えている。	主には関西圏における専門学校の状況や基本的な水準を踏まえた学納金設定を行っている。			3

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：朝日庸平

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
8、財務	8-1、財務基盤	8-1-1、中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	安定的な学生募集を継続し、財源の確保を確実なものにしつつ財務基盤の充実を図る。	コロナ禍への対応は発生したものの、過大な影響を被ることは無く、中期的な財務基盤は安定している。	将来の姉妹校や専門職大学の設立を想定した財務基盤のさらなる充実。	安定的な学生募集を継続させ、適切な支出管理に努めたい。	4
	8-2、予算・収支	8-2-1、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	コロナ禍の先を見据えて、学習環境および管理運営インフラの充実を図る。	安定的な財務基盤に支えられて、有効かつ妥当な予算・収支計画となっている。	コロナ禍への対応の中で、予算と決算に差異が発生している項目がある。	差異の適切性は監事によって確認されている。今後は補正予算により実情に即した予算管理を行いたい。	3
	8-3、監査	8-3-1、財務について会計監査が適正に行われているか	常勤監事が帳簿及び信憑書類の確認をするなど、会計処理と適正な財産管理を保証する。	常勤監事が理事会出席等も行っており、会計処理、財産の管理などに問題は出ていない。	現行の体制を維持しつつ、法人の負債の返済が滞りなく実行されるようにして行きたい。	今後も、経営陣による財務管理、監事による監査が着実に進められるように務める。	4
	8-4、財務情報公開	8-4-1、財務情報公開の体制整備はできているか	学校法人としての情報公開には積極的に取り組み、法令に則った情報公開は順守実施する。	適切な情報公開が行われている。	情報公開のスケジュールの管理は、公開情報のリニューアルも含め進行管理を向上させたい。	適切な財務情報公開のためにも関連する決算、理事会・評議員会の開催などにも注意して行く。	4

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：橋高雅彦

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
9、法令等の遵守	9-1、関係法令、設置基準等の遵守	9-1-1、法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令順守は勿論、学校運営における規程類や基準の整備などを進める。	今年度は過去に遡った報告漏れなどの修正も含め取り組んできている。	監督官庁への届け出の遅れなどを改善し、順当な校務の促進を確実にしたい。	年間事務処理のスケジュール化を含め、対応に遅れが出ないようにしたい。	4
		9-2、個人情報保護	個人情報の管理に関しては規定の整備も含めて厳格に個人情報の保護に努めたい。	個人情報の管理に関して問題は発生していない。	態勢は整備されているが職員一人一人が個人情報の管理についての認識と理解の向上が必要。	職員研修の課題として検討してみたい。	3
	9-3、学校評価	9-3-1、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	毎年、自己評価の実施および自己評価報告書を作成し、学校運営の改善を図ることを方針としている。	自己評価委員による自己評価報告書の作成と、新入生対象アンケートを実施し、課題点の抽出と改善に繋げている。			4
		9-3-2、自己評価結果を公開しているか	毎年、自己評価報告書を作成し、学校ホームページに公開・情報更新することを方針としている。	学校ホームページで公開している。			4

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：9-1～9-2橋高雅彦・9-3朝日庸平

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
10、社会貢献	10-1、社会貢献・地域貢献	10-1-1、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	自治体・公共機関・企業・中学校・高校等との専門分野を通じた社会貢献・地域貢献活動を積極的に行い、地域社会に信頼される専門学校を目指していきたいと考えている。	声優学科学生が担当した淀川区成人式総合司会や、マンガイラスト学科学生による警察署の防犯啓発チラシポスターイラストデザイン協力など、学科の特性を活かした活動のほかにも中学校や高等学校への職業に関する講話などにも積極的に取り組んでいる。			4
		10-1-2、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア活動をアクティブラーニングや課題解決学習の場として推奨し、学生の人間力や学力向上に繋げていきたいと考えている。	学外から要請があればできる限り参画している。	2年という限られた修業年限において、学業及び就職活動と学生個人の状況に併せた進路指導を優先しているため、学内での積極的な案内告知に取り組めていない。	専属のボランティアコーディネーターや地域連携担当職員の設置など支援体制の整備を検討していく。	2

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：朝日庸平

【４】適切・【３】ほぼ適切・【２】やや不適切・【１】不適切							
大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
11、国際交流	11-1、留学生の受入れ募集	11-1-1、留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	エンタテインメント業界の発展に貢献できる人材輩出を目的とした計画的な受け入れ体制の整備を目標としている。	留学生からの資料請求やオープンキャンパス参加、オンライン相談などに対して、相談者の状況に即した個別対応や情報提供を随時行っている。	入学条件の難易度の高さからこれまで該当者は無く、具体的な国際交流には至っていない。	入学条件の見直しや留学生向け募集要項改定など受け入れ体制の整備と充実化を進めていく。	2
		11-1-2、留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	文部科学省「外国人留学生の在籍管理の徹底に関する新たな対応方針」に基づき、適切な在籍管理と手続き対応が行える体制の整備を目標としている。	入学条件の難易度の高さからこれまで該当者は無い。	実際の在籍管理や事務手続きに関する対応実績がないことから経験値に乏しい。	外国人留学生の留学審査手続きと申請取次にかかる研修会など、学校職員対象の研修会へ積極的に参加し、担当職員の対応力強化と受け入れ体制の整備を進めていく。	1
		11-1-3、留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整理されているか	グローバル社会で通用する人材育成を目的に学生の進路実現に向けた学習環境とキャリアサポート体制の整備を目標としている。	入学条件の難易度の高さからこれまで該当者は無い。	学習指導や生活サポートなど学内における対応実績がないことから経験値に乏しい。	教務部・キャリアセンターとの連携を強化し、適切な学習指導及び進路サポート体制の整備と確立を目指していく。	1

最終更新日：2022.6.6(月) / 文責：朝日庸平